

方正の中国人夫婦に会う

上条 八郎

今回、私がこのツアーに申込した理由は三つある。

一つは、内モンゴル出身で飯田市に嫁いでいる女性から『ノモンハン事件によって、日本が負けたから、モンゴルは中国領、ロシア領、モンゴルの三つに分けられてしまった』と常々聞いていたので、その場所に行ってみたかったこと。そして彼女の郷里は内モンゴルでもフフホトより西のオルドスなので、どこまでも砂漠化してしまっていたが、ノモンハンの辺りはホロンバイル草原と云って一面草原地帯だと聞いていたこと。

二つ目は、飯田市郊外の阿智村に、来年建てる予定の「満蒙開拓平和記念館」の敷地内に植える樹木を全部私が寄付すると云ってしまったので、旧満洲の現地に植っている樹木を調べることにした。結果は大部分がポプラ（和名ヤマナラシ、ドロノキ）であったが、その他もほとんど手掛けたことのある樹種で安心した。

三つめは、方正で自由行動にしてもらって、中国人の夫妻に会うことである。方正県出身の姉妹が塩尻市に嫁いでいる。親族訪問ビザで来日した両親に仕事をさせてやったことがある。村内の仲間と二度にわたって農作業をしてもらった。7年前、方正へ行った時、彼等の自宅へ行きそびれたので、今度こそはと前日ツアーガイドの韓さんに電話してもらって、合流場所を打合せしておいた。旅行7日目、方正の人民政府訪問先に10:40にバスは到着した。

しばらく待っていると、グッピーの様な橙色の三輪タクシー「ガンデン」から、張さん、門さん、孫の芸馨（イーシン）ちゃんが降りてきた。夫婦共前回見た時よりヤセた様に見える。学生結婚して名古屋の大学へ行っている、息子夫婦の子供を首もすわっていない頃から4年半も育てたので、その苦勞の為かと思った。孫のイーシンちゃんは、私の3才の外孫に比べて小柄だが、色白で、ママそっくりの大きい目をしてとても可愛い。自宅までは歩いて15分位だというので、街を見ながら4人でゆっくり歩いた。7年前に比べて、ずい分、きれいな建物が増えた。

あの時は小雨だったが、今回は快晴で気持がいい。大通りを横断するのに妻の門さんは信号赤でもさっさと渡ってしまった！ 孫を抱いた張さんと私は左右をキョロキョロ見ながらやっと渡り終えた。方正県竜星小区が建てたという新築の6階建マンションが何棟も並んでいる。8号楼が彼等の家が入っている棟である。今まで住んでいたアパートを売った代金に長女の由加里が送ってくれた260万円を足して買い、今年の6月17日に移ったばかりだと云う。

床張りの3DKで真新しいテレビ、洗濯機、流し台、ガスレンジ、洋式便器、Wベットと一通りそろっているが、まだ使いこなしていない感じがする。途中で買ってきた冷たい飲物とスイカとお菓子を出してくれた。お土産にと下山田さんと矢田さんから預った品物と、残り物の「ミニ赤いキツネ」3ケと一万円札を包んで渡した（由加里から9月3日に来日すると聞いていたので、物入りだろうと思って）。

しばらく休んで昼食にかけた。まだこの団地はできたばかりで中庭は整備されていなく、水たまりの未舗装である。隣の建物の1階に裏口から入った。表にまわると食堂の看

板がかかっている。両側3人ずつ6人掛の小部屋に入り、ビール2本持ってきた。スイカでかなり腹ができていたので、「大量×、少量○」と書いたのに料理を一杯注文したらしく、次々と出てくる。干豆腐、羊肉沙鍋、溜肉段、牛肉羊葱、スイカをスライスして砂糖かけたもの、水ぎょうぎ2皿。3人でこんなに食べられる訳がない。金も無いのに何て無駄なことをと思うと共に、精一杯ごちそうしてくれているのが伝わってきた。しばらくすると、門さんが何か買って帰ってきた。赤い箱の月餅2箱ずつ、3袋である。朋友（友人）の分もおみやげだという。

結局、ビールに酔い、どれも2口ずつ食べた位で、7～8割余ってしまった。料理代を払おうとしたら門さんに強引に止められた。もらって家に持って行くよう云うと、最初からそのつもりだったのか、スイカ以外はビニール袋に入れてもらって店を出た。

昼食も済み、皆と合流することになっている「方正賓館」に向かうが、近くだから歩いて行くという（また三輪タクシー「ガンデン」に乗りそびれた！）。大通りへ出て地下街へ入った。300～400mあるだろうか、両側真新しい店が並んでいる。衣料品、装飾品の店が多い。最近オープンしたらしいが、こんな田舎町に立派過ぎる地下街。何か他に目的があるのかな？ 通りぬけて交差点を渡ると、「方正賓館」の前に出た。あの時は反対方向の道路は砂利道で、オンボロトラクターが黒煙を上げて走っていたのに、ずい分街並も道路もキレイになったものだ。

午後2時で、待合せ時間より大分早く着いてしまったのでロビーで休んでいると、一行のバスが見えた。皆が入ってくる頃にはイーシンちゃんも目ざめて、皆に可愛い可愛いと云われて、人気者になっていた。名古屋にいるこの子の両親はこの春、大学を卒業し、パパは製造業の会社に、ママはアパレル関係の会社に就職して一応生活も安定してきたので、9月になったら孫を返しに行くという。9月3日に方正を発って、バス、列車を乗り継いで大連に行き、名古屋へは4日に行くという。乳呑み児の頃から4年半育てたイーシンちゃんと別れると夫婦共、^{たましい}霊がぬけたようになってしまわないだろうか？ そしてイーシンちゃんは4年半も離れていた両親になつくだろうか……。涙、ポロポロだろうという二人共、笑っていた……。

今回二人に会って感じたことは、元来農民であった二人が、日本に嫁いだ娘の仕送りによってマンションに移り、完全に都市住民になっていたことへの驚きと同時に、そうなくても農村戸籍のままだとすれば定職にもつせず、子供達の仕送りに依存した生活しかできないであろうということ。月3万円かかるという生活費は大変な負担だと思う。マンションの入口には電気料を滞納している部屋番号と料金が掲示してあったが、幸い彼の部屋番号はなかった。しかし、帰りがけに彼はピッとのはがして捨ててしまった！

方正に住む前は松花江の対岸の通河で田んぼを作っていたらしいので、藤原長作翁のことや、両親から聞いているだろう開拓団のこと等、聞き出せたらと思いつつも、筆談ではほとんど聞き出せず、もどかしさが残った3時間余りであった。

（かみじょう・はちろう：1940年、長野県山形村生まれ。緑化木生産販売の丸八種苗園を経営。飯田日中友好協会会員。父が満蒙開拓に行けば、ドラマ『大地の子』の主人公は、もしかしたら自分自身だったかもしれないと思い、14年前から中国各地を旅する。内モンゴルのオールドス砂漠の植林に2度参加する）